

留学先国名 : フィンランド

留学先学校名 : Lyseonpuiston lukio

留学期間 : 平成 26 年 8 月 3 日 ~ 平成 27 年 7 月 12 日

1 年間の留学を終えた今、言えるのは「留学してよかった」ということです。楽しかった、今までの人生で最高の 1 年だった！とは言いません。ただ、日本での高校生活をスキップしてでも留学する価値はありました。

私の留学生活の中心はホストファミリーでした。1 年間で 3 つの家族を持ち、その 1 つ 1 つが私にたくさんの経験をさせてくれました。野生のブルーベリーを摘み、ボートを車に積んで湖まで魚釣りにいき、森までオーロラを見に夜中にドライブをし、クリスマスにサンタクロースを家に呼び、雪で一面真っ白の森の中を散歩し、南の街まで旅行にいき、1 4 km もの距離を凍った川の上でスキーし、川でマットの洗濯をしたりもしました。寝る前に食べる夜食や、一緒にみるテレビ、サウナでいろいろなことについてお喋りしたり、アイスホッケーの試合を必死になって観戦したり、ホストシスターの喧嘩にこっそり聞き耳をたてたり、毛糸の靴下の編み方を手取り足取り教わったり、小さな日々の出来事も全てホストファミリーのおかげで楽しく過ごすことができました。突然日本からやってきた他人の女の子に、こんなにもよくしてくれたファミリーたちにはとても感謝しています。それと同時にホームステイは、そういったおもてなしをできる人間の暖かさを知る機会にもなりました。

この 1 年の一番の成果は「言葉」です。フィンランドに着いてすぐのころは数字でさえあやふやだった私が、1 年を終えるとしっかりと読み書き話することができるようになったのは、とても大きなことだと思います。フィンランド語はフィンランドでしか話されておらず、他言語とは大きく異なった特徴を持つ、難解言語です。フィンランドに何年も住んでいても話せない人は少なくありません。フィンランド人は英語が堪能なため、留学生がフィンランド語習得の必要にせまられることもなかなかないのです。ですが私はフィンランド語習得を強く望み、集中して勉強しました。単語カードでカルタをしたり、毎日 SNS にフィンランド語で投稿したり、英語まじりでも恥ずかしくがらずにフィンランド語を話していきました。全てはとても親切にしてくれるホストファミリーとのスムーズなコミュニケーションと、学校の友達が気軽に話しかけられるようになるためです。そうしてフィンランド語への興味はどんどん大きくなっていきました。耳にした新しい言い回しは何度も聞き返して覚えました。フィンランド語で書かれた教科書を英訳し、理解しようと努力しました。その結果、1 年の終わりには「フィンランド語、1 年しか勉強してないの？信じられない！」と驚かれるほど上達しました。また、学ぶまで自分にとって全く意味を持たなかった単語の羅列が、努力と経験を通してしっかりと意味をもった「言葉」になる、言語習得の喜びを体感しました。

2 つ目に得たことは、フィンランド人のものの考え方です。日本人の根底にあるものが「協調、集団」だとすれば、フィンランドでは「独立性、個人」が重要視されます。それらは特に学校の仕組みに顕著に見られました。例えば日本の学校の体育祭、運動会、文化祭は生徒の参加が強制です。クラスメイトとチームを

作り、それに向けて協力して準備し、競い合います。フィンランドの学校にはそういった行事はありません。一大イベントのダンスパーティーも希望者のみの参加、クラス写真も映りたい人のみで。イベントの準備や片付けの時も、手を抜いていたからと注意を受けるようなことはありません。特に高校では、成人である18歳を過ぎると、全てのことがその生徒次第、責任になります。日本のような団結、仲間などはフィンランドでは「重要ではない」のです。古くから寒い地域で過ごしてきたフィンランド人は無駄なことを徹底して省き、重要でないことは必須ではないのです。学校は勉強をする場だからクラブ活動もなければ、掃除当番もありません。私はこれをみたときに、一概に日本とフィンランドどちらがいいかは言えないなと思いました。世の中にはいろいろな考え方があり、自分が慣れ親しんだものが正しいとは限らない、常に疑問をもって、物事を見なければならぬのだとわかりました。そして様々な視点を得たあとは、それらの意見のバランスのとれた真ん中を探すごとが必要だと思います。フィンランドの学校にはもう少し、みんなで何かをするイベントがあればいいと思うし、日本の学校にはもう少し、生徒に選択肢を与えて彼らを「大人として」扱ってほしいのではないかなと思います。

そしてその「団体・個人」に対するフィンランドと日本の意見が逆になることがあります。それは「国」としての意識です。フィンランドは700年にも渡るスウェーデンと旧ソ連の支配から、つい97年前に独立を勝ち取った若い国です。よってフィンランド人は「フィンランド」という国に誇りをもち、その独立の喜びを忘れてはいません。一方で日本は統一国家として世界最長の歴史をもつ古い国です。それゆえに私たちは日本の国としてのありかたを忘れがちだと思います。不景気や政治への不安から、日本人は「日本」を誇りに思うことができなくなっているのです。それは日常生活の小さなことにも及びます。フィンランド人はフィンランド製、フィンランド産、フィンランドデザインにこだわり、それが輸入品と比べて高くても、国産を好んで購入します。フィンランド人はフィンランドが好きなのです

そこで私の興味は「国際関係」から「日本」へと移りました。自国を離れて改めて感じた、日本の素晴らしさ、そして一日本人として自覚し日本への失望をどうにかしなくてはならないと思いました。今の私の将来の目標は、「日本人自身が、いい国だなと心から思える日本」造りの一部になることです。特に経済や観光面への進路を考えています。ヨーロッパの東北と呼ばれるフィンランドは日本と似た者同士、そしてまた大きく異なる面をもつ。必ずお互いがお互いから学び、改善されることがあるはずです。そこでこの1年を通しての経験と、習得したフィンランド語を役立てようと思います。

これから留学する人、留学の期間は何に挑戦しても大丈夫な、日本の生活とはまったく切り離された時間です。そして自分次第で良くも悪くもなるのが留学です。新地開拓だと思って、何事にも勇敢に挑戦し、限りある特別な1年を新しい経験と素敵な出会いでいっぱいにしてください。